

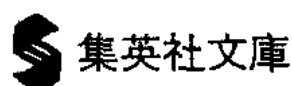
伴野朗

三国志

孔明死せず



集英社文集



さんごくし こうめいし
三国志 孔明死せず

1996年 8月25日 第1刷

定価はカバーに表示してあります。

著 者 とも の ろう
伴 野 朗

発行者 若 菜 正

発行所 株式 集 英 社
会社

東京都千代田区一ツ橋2-5-10
〒101-50

(3230) 6100 (編集)

電話 東京 (3230) 6393 (販売)

(3230) 6080 (制作)

印 刷 大日本印刷株式会社

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

落丁・乱丁の本が万一ございましたら、小社制作部宛にお送りください。
送料小社負担でお取り替えいたします。

© R.Tomono 1996

Printed in Japan

ISBN4-08-748508-0 C0193

集英社文庫

三国志 孔明死せず

伴 野 朗



三国志 孔明死せず

目次

主な登場人物・地図	5
プロローグ	12
第1章 南征	19
第2章 出師	67
第3章 北伐	111
第4章 復活	163
第5章 攻勢	209
第6章 亡霊	255
第7章 栄光	303
エピローグ	346
単行本あとがき	349
参考文献	351
解説 雑喉 潤	353

主な登場人物

蜀

《諸葛亮》

字孔明。劉備に三顧の礼をもつて迎

えられ、漢王朝再興を図る蜀の丞相。

《劉備》

字玄德。蜀漢をたてるも、呉との合

戦中、志半ばで白帝城に没する。

《劉禪》

字公嗣。父劉備の死後、十七歳で蜀

帝となる。器は凡庸。

《馬謖》

字幼常。北伐は街亭の戦いで信頼あ

る孔明の命に背き、大敗を喫す。

《鄧芝》

字伯苗。誠実な性格で、呉との同盟

締結に奔走。孫権の信頼を勝ち取る。

《魏延》

字文長。孔明をして反骨の相といわ

しめ、これに反発する。

《姜維》

字伯約。天水太守馬遵のもとから蜀

に降る。孔明の絶大な信頼を得る若

き将。

《趙統》

字芝豹。趙雲の遺児、剣の使い手。

父似の果敢な性格で、蜀軍若手のホ

ープ。

《張飛》

亡き張飛の娘。馬術、弓に長じる。

武骨な父に似ぬ美女。

《関麗》

関平の遺児、関羽の孫娘。孔明に引

き取られる。霊と交信できる能力を

持つ。

《関羽》

字雲長。張飛とともに劉備の旗揚げ

以来の盟友。呉の呂蒙との戦いで死

す。

《関平》関羽の養子。関羽とともに斬首され

た。

《周倉》関羽の股肱の臣。弓の名手。

《趙雲》字子龍。五虎将の一人。劉備の股肱。

《王平》字子均。街亭で馬謖の副将をつとめ

る。

《楊儀》字威公。孔明の信厚く、魏延とは不

仲。

《馬岱》馬超の従弟。馬超譲りの勇猛の士。

《馬忠》字徳信。劉備を感嘆せしめた蜀の逸

材。

《張翼》字伯恭。責任感を孔明に買われる高

士。

《張疑》字伯岐。勇敢で果断。孔明の信を得

る。

《孟達》関羽を見殺しにして怒りを買ひ、魏

に降る。

《孫宜》孔明の諜報機関「臥龍耳」の頭領

(巨子) 孫歴の養子。七十七代目巨

子。

《蔡鵬》「臥龍耳」の副頭領。情報収集のプ

ロ。

《俞平》「臥龍耳」の火薬専門家。

《周完》「臥龍耳」の治水工事の専門家。

《徐真》「臥龍耳」の穴掘りの専門家。

魏

《司馬懿》字仲達。曹丕の信頼を得、対蜀戦の

総司令官となる。孔明のライバル。

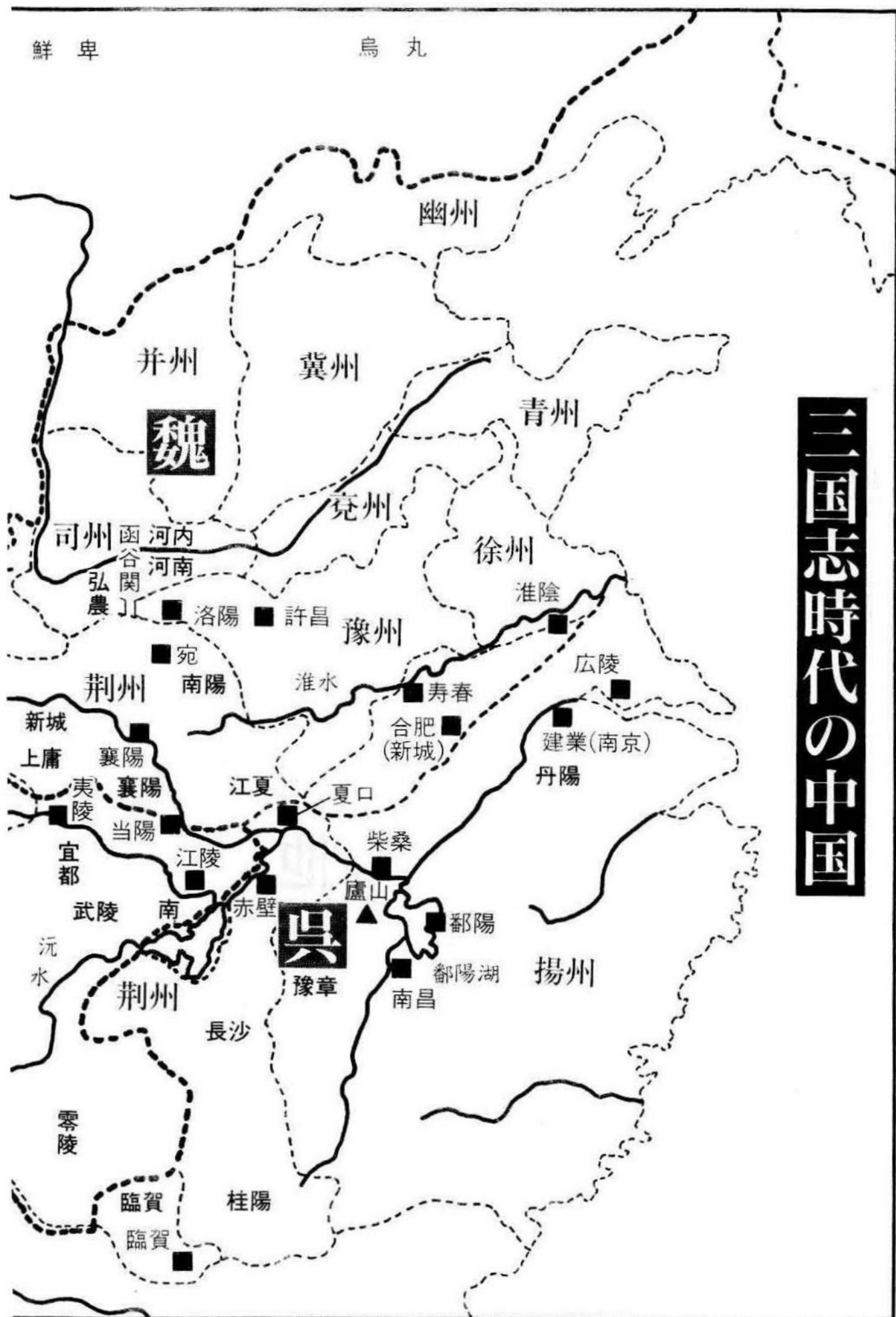
《司馬師》字子元。司馬懿の長男。

《司馬昭》字子尚。司馬懿の次男。自尊心が強

い。

鮮卑

烏丸



三 国 志 時 代 の 中 国

《曹操》字孟德。「治世の能臣、乱世の奸雄」

といわれた魏王。

《曹丕》字子桓。曹操の長男。その跡を継ぎ、

獻帝を廃して帝位につく。文帝。

《曹叅》字元仲。曹丕の跡を継ぐ。明帝。

《張郃》字儁乂。街亭の戦いで馬謖と対する。

司馬懿の信用厚い名将。

《郝昭》字伯道。火薬兵器を巧みに用いる。

《滿寵》字伯寧。赤壁後、当陽を守る硬骨漢。

《曹休》字文烈。曹操に可愛がられた族子。

《曹真》字子丹。曹操の養子の一人。虎豹騎。

《魯元》司馬懿の間諜組織「青州眼」の頭目。

呉

《孫権》字仲謀。兄孫策の非業の死のあと、

呉を治める。蜀との同盟締結を決意。

《陸遜》字伯言。夷陵で劉備を敗走させ、白

帝城に追いつめた若き総司令官。

《諸葛瑾》字子瑜。孔明の実兄。孫権の謀臣。

その他

《孟獲》建寧の少数民族の酋長。孔明の七縱

七擒の末、帰順を誓う。

《華佗》当時、画期的な医療を施した伝説的

名医。曹操に投獄され、獄死する。

《呉普》華佗の弟子。その医术の正統を継ぐ。

《樊阿》華佗の弟子。鍼では師を凌ぐ腕を持

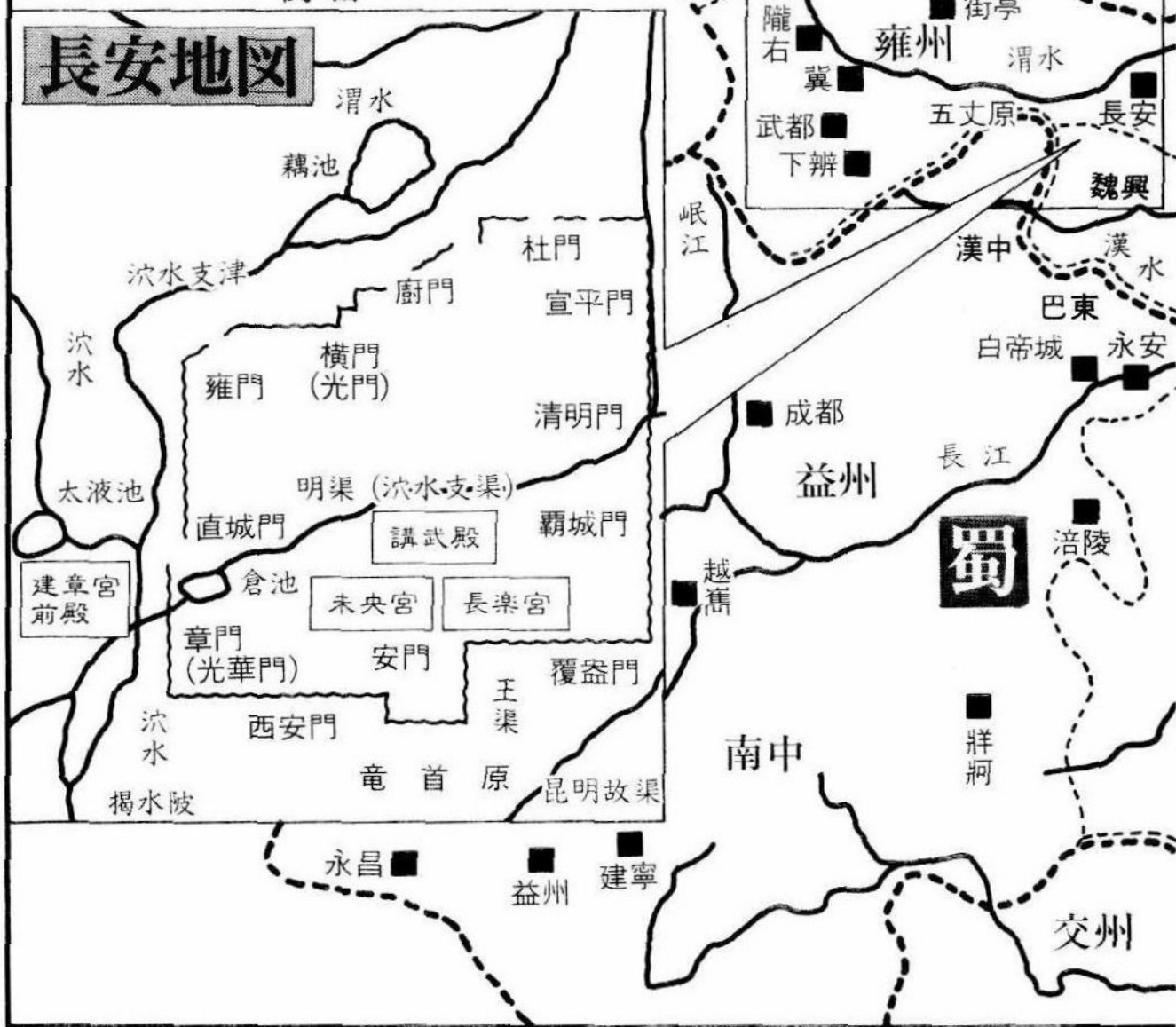
つ。

《左慈》字元放。不思議な力を持つ方術士。

五丈原周辺地図



長安地図



三
国
志

孔
明
死
せ
ず

プロローグ

天空を北から南へ、星が流れた。赤く長い尾を引いて……。

静寂。死のような静寂。

男が一人、立っていた。彼の眼下を、中国大陆一の大河が、西から東へ流れている。
長江である。

西の果ての源を極めた人物はまだいない。中国大陆を龍のような姿で横断し、東シナ海に達している。その河口は、海のように広い。

だが、長江もここまで遡ると、江幅は二百メートルほどしかない。兩岸は、切り立ったような断崖で、高さ百メートルに近い。その絶壁が長江を保護する形で連なっている。ここから下流にかけて、「三峽」と呼ばれる急流となる。

上流から瞿塘峽、巫峽、西陵峽という。降雨量の多い四川一帯の雨水を集めて長江が下る。巫峽山地は江谷が狭い。激流は唸りをあげて岩を噛み、咆哮をあげて岸壁に迫る。天に聳える岸壁は、蒼穹を閉ざし、太陽は中天にかかるまで仰ぐことができない。増水期の流速は、毎秒七メートルにも達する。

男は、北岸の絶壁の頂に建つ宮殿の露台に立っていた。彼は、動かない。塑像そぞうかなにかの
ように。

白面の壮士である。長身で、広い額をしている。それが、彼の聡明さの証あかしでもあった。その
爽やかさわやかとしかいいようのない双眸そうぼくの下に、整って高く、薄い鼻と、一文字に結ばれた口が
あった。唇は、女のそれのように赤い。さらに、彼の顔を印象づけているのが、美髯びぜんだった。
初めて、彼の口から言葉が洩もれた。

「まもなくか……」

天文をよくする。流星になにごとかを読み取ったようである。

この宮殿は、つい一年ほど前までは、

——白帝城はくていじょう。

と呼ばれていた。いまの名は永安宮えいあんきゅうである。約五百年後の唐とうの詩人、李白りはくが、

朝あしたに辞じす 白帝 彩雲さいうんの間
千里の江陵こうりやう一日いちじつにして還かえる
兩岸くわんの猿声えんせい啼ないて尽つきず
輕舟けいしゅう已すでに過すぐ 万重ばんちゆうの山

と詠じたところと、風光はあまり変わっていない。

時は、章武三年しょうぶさん（二二三年）四月である。ここ蜀漢しよくかんの巴東郡永安はとうぐんえいあん（四川省奉節ほうせつ）を吹く風は、

まだ冷たい。

「丞相、陛下がお呼びです」

背後から声があった。長身の武人である。槍を取っては天下無双といわれる趙雲である。字は子龍。常山郡真定（河北省石家荘の北）の人である。

もとは公孫瓚の配下であったが、劉備に仕えてすでに久しい股肱の将である。身長八尺、筋肉質のすらりとした体形をしている。

彼の武名を高めたのは、当陽の長坂（湖北省荊門の南西）の戦いである。曹操の大軍の前に劉備軍は敗れ、甘夫人と幼い阿斗（劉禅）が置き去りになったのを、単身救出したのである。さらに四年前の漢中攻防戦で偵察行動中、魏軍の本隊と遭遇して危うかったが、趙雲は少しも騒がず、鮮やかな後退戦を演じ、敵味方の度胆を抜いたものである。劉備は、——子龍は一身すべて胆なり。と、称賛を惜しまなかった。

「参る……」

丞相と呼ばれた男は、短くそう答えた。露台の上を一陣の風が吹き抜けた。

蠟燭の灯が、ジリジリと音をたてて燃えていた。その影が、天井で揺らめいている。

「孔、孔明……」

病床の男が、呟くようにいった。その面貌には、すでに覆い難い死相が現れている。

「おそばに……」

白面の壮士が軀を寄せた。

諸葛亮、字孔明、山東は瑯琊（山東省沂水県南）の人である。鬼謀の軍師と謳われ、主君劉備に、

——天下三分の計。

を説き、ついに蜀漢の皇帝の座につけた。この時、四十二歳。

病床にある劉備の脳裏には、十カ月前のことが、走馬灯のように甦っていた。

「無念じゃ……」

血を吐くような、腹から絞り出された声である。漢の中山靖王劉勝の末裔、一介の席巻りから身を興した英傑劉備も老いていた。字玄德。隆中の草庵に孔明を訪ねること三度、臥龍を得たのち、天下にはばたく。魏の曹操の南征軍を呉の孫権と結んで赤壁に破り、荊州を制して、益州四川の地に起ち、漢中王となった。

それは、わずか四年前のことに過ぎない。同年、股肱の臣関羽が呉の呂蒙と戦って死んだ。その翌年には、宿敵曹操もこの世を去った。

二年前の章武元年（二二二年）、成都で即位し、蜀漢を立てた。関羽の弔い合戦を準備中、燕人張飛が部下に謀殺された。

心の整理がつかないままの夷陵への出陣であった。歴戦の劉備にも焦りがあった。若い呉の將軍陸遜の計略にはまり、七十五万の大軍を失った。そして、ここ白帝城に逃げ込んだのである。